



乳がん+plus 2022年7月版

Oncologist Fact Report

- 遺伝子検査の実施状況と実施タイミング
- ホルモン陽性かつHER2陰性の術後補助療法のレジメン
選択の変化

株式会社メディカルトリビューン

Breast cancer '22

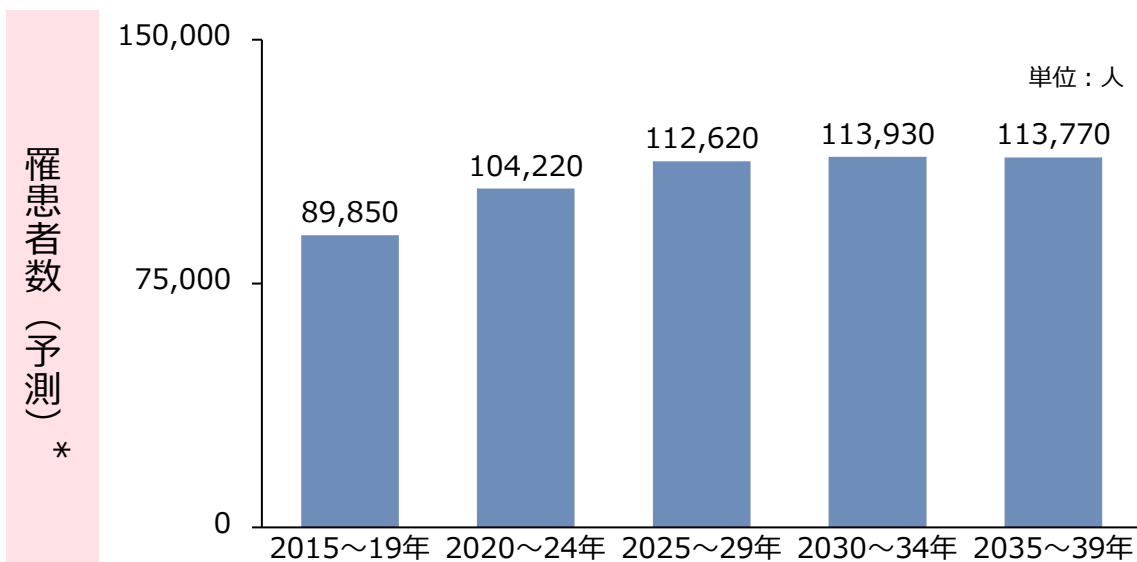
目次

1. 調査概要	
● 市場概況と調査概要	4
● 回答者属性	5
● 直近1年間のステージ別乳がんの患者数	8
2. エグゼクティブサマリー	16
3. 調査結果詳細	
3-1.	
● 第一部：遺伝子検査の実態	
ーがん遺伝子パネル検査	20
ーHBOC検査	31
ーコンパニオン診断（BRACAnalysis検査、PD-L1検査）	32
3-2.	
● 第二部：ホルモン受容体陽性かつHER2陰性の術後補助療法	
ーCDK4/6阻害薬アベマシクリブの使用実態	37

市場概況と調査概要

乳がん治療は、コロナウイルス感染症の発生により、診断の遅れ、薬剤不足、医療専門家の不在により初期段階で乳がん治療市場に悪影響を及ぼした。しかし、今後は治療が世界中においても再開され、世界市場は今後数年間で勢いを増すと推定されており、日本市場へも治療薬の適応拡大や新規治療薬の参入により市場の成長が予想される。

乳がん薬剤 市場概況



*【出典】平成28年度科学研究費補助金基盤研究(B)(一般)日本人におけるがんの原因・寄与度；最新推計と将来予測
国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」⇒罹患（女性）の全年齢のデータより作成

調査目的

- 乳がん診療における各種遺伝子検査の実情を把握する
- HR陽性かつHER2陰性乳がんの術後補助療法においてCDK4/6阻害薬が使用可能となってからの処方実態を把握する

調査対象者条件

- 乳腺外科、外科、腫瘍内科
- 直近1年間に乳がん患者を1人以上診療

標本抽出

Medical Tribune ウェブ 医師会員

調査手法

WEBアンケート調査

サンプル数

157ss

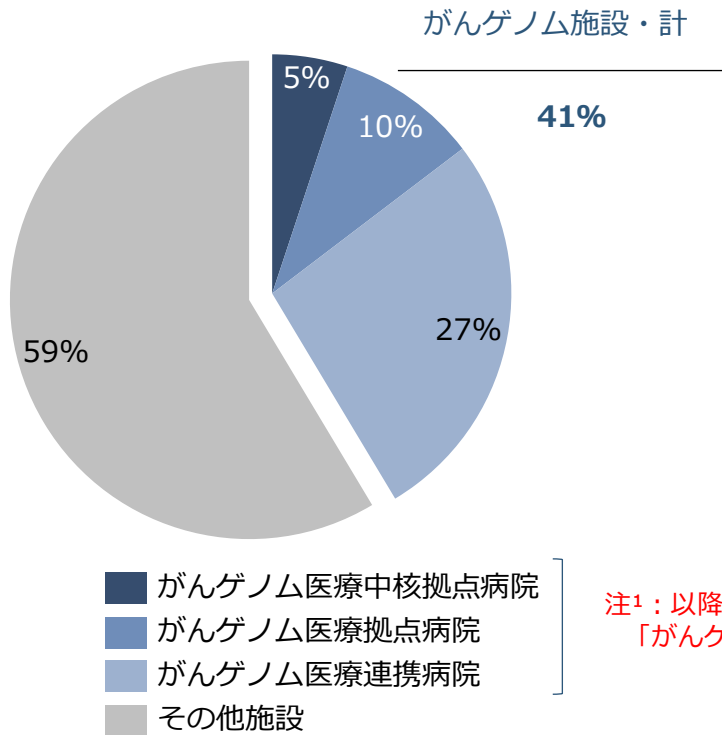
調査時期

2022年5月30日～6月7日

全体

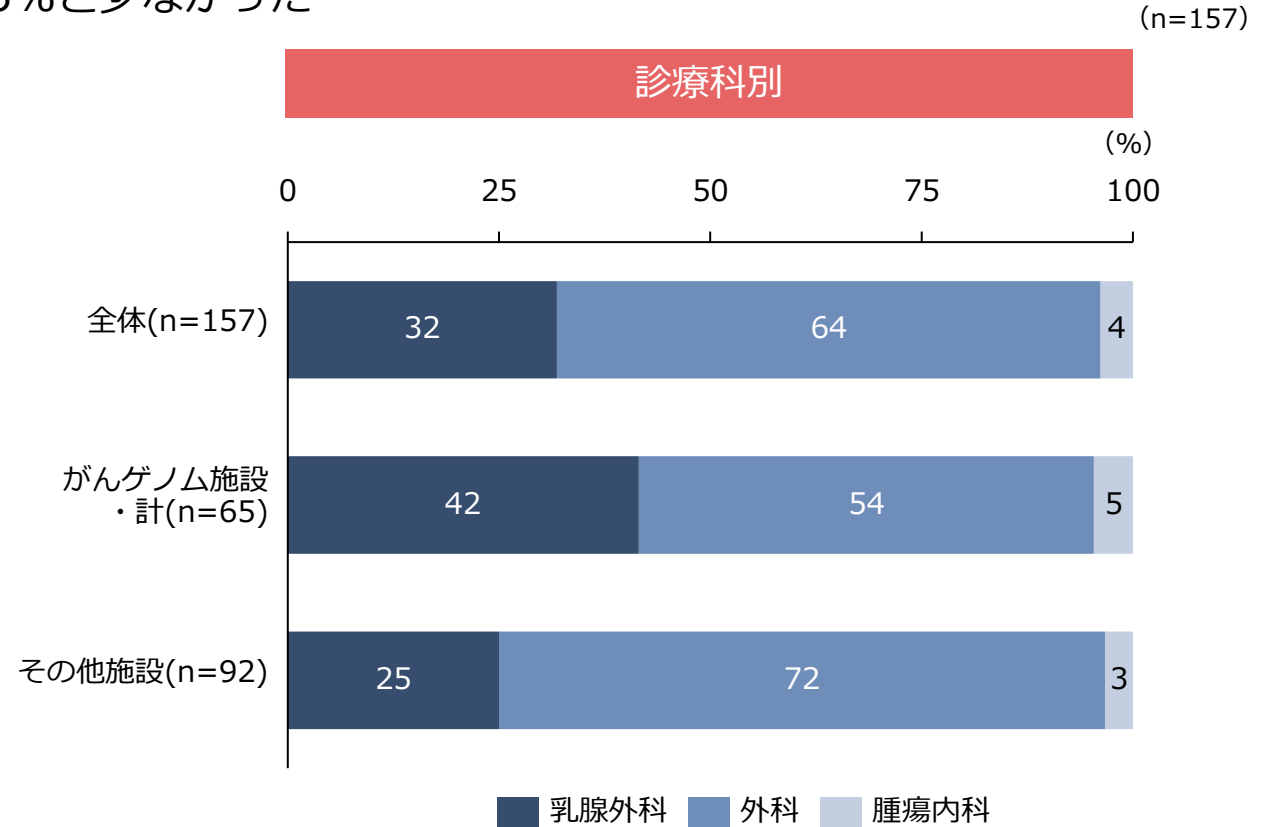
- ✓ がんゲノム施設（注1）は全体の4割を占めた
- ✓ 乳がんを診療している科はがんゲノム施設では乳腺外科が42%、その他施設では25%と、がんゲノム施設では乳腺外科が診療する割合が多かった
- ✓ 腫瘍内科はがんゲノム施設でも5%と少なかった

ゲノム医療病院区分



注1：以降のレポートでは、「がんゲノム施設・計」とした

診療科別

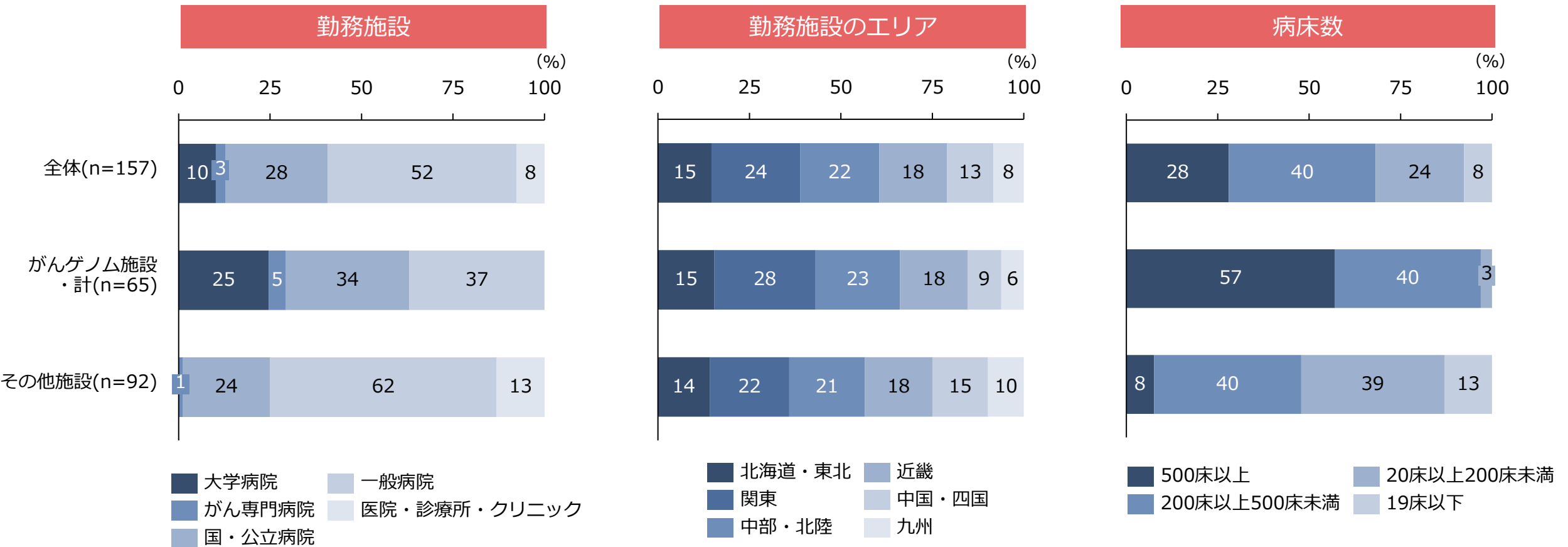


F3.先生の勤務先について、がんゲノム医療における施設区分を教えてください。/SQ1.先生の主な診療科を教えてください。

全体

- ✓ 勤務施設は、がんゲノム施設では大学病院が25%を占めており、大学病院、がん専門病院、国・公立病院で63%を占めた。一方、その他施設では一般病院が62%を占めた
- ✓ 勤務施設のエリアは、がんゲノム施設とその他施設で大きな差はなかった
- ✓ 病床数はがんゲノム施設では500床以上の大規模病院が57%と半数以上であった

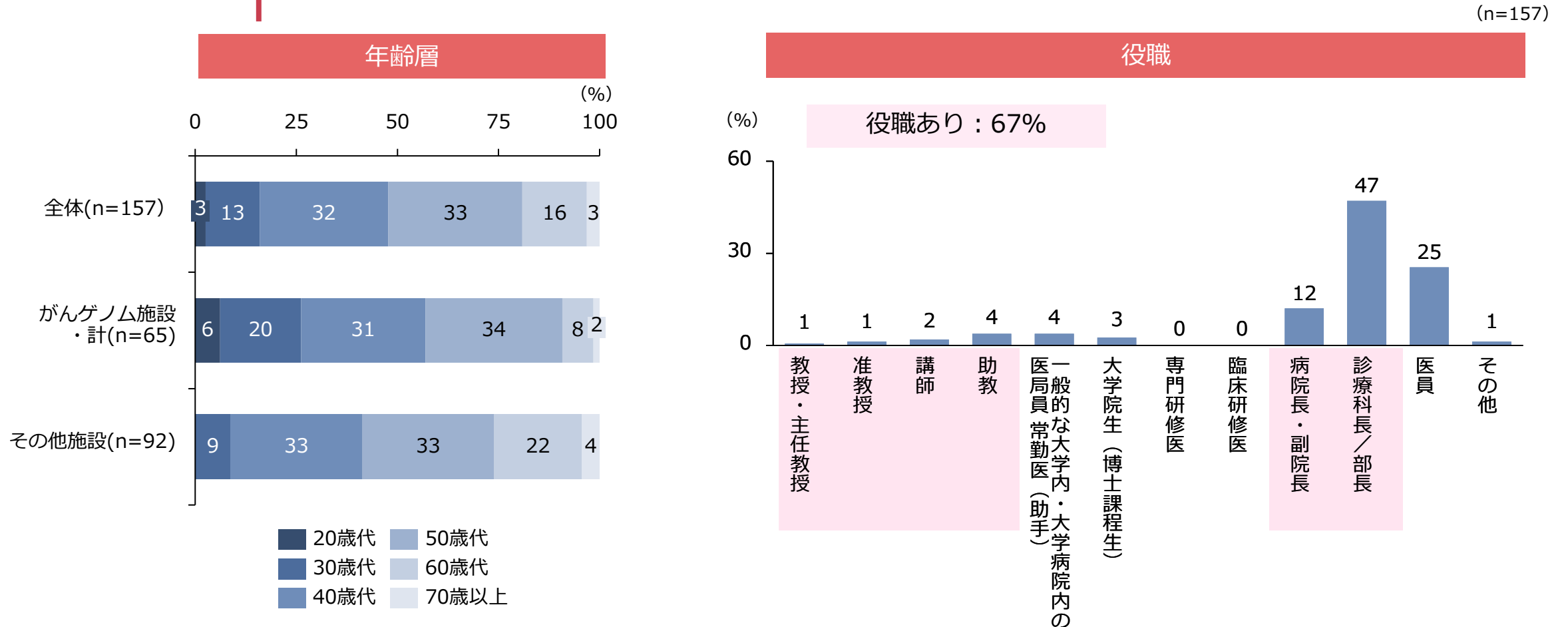
(n=157)



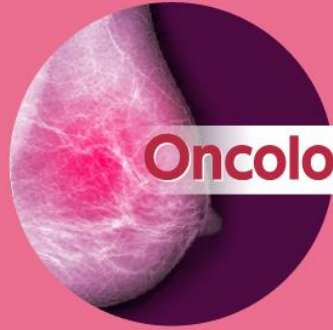
SQ2.主たる勤務施設を教えてください。/F1.施設の所在地を教えてください。/SQ3.先生の主たる勤務施設の病床数を教えてください。

全体

- ✓ 年齢層は、がんゲノム施設では20～50歳代が91%、その他施設では74%とがんゲノム施設ではより年齢層が低かった
- ✓ 役職がある割合は6割以上を占めた



F2.先生のご年齢(世代)を教えてください。/F4.先生の主な勤務施設での役職を教えてください。(SA)



Oncologist Fact Report

2022年7月版



CONFIDENTIAL

本資料は、貴社社内関係者のみによって使用されるものとし、本資料のいかなる部分についても、株式会社メディカルトリビューンの事前の書面による承諾を得ずに、回覧・引用・複製、あるいは貴社外部に配布してはならないものとします。